

地域の活性化と産業戦略会議を開催

1. 開催目的

富山県のモノづくり産業は、開発途上国の激しい追い上げ、更なるコストダウン、新規製品開発費用増大等、多くの経営課題の克服が求められている。富山県全体の生産高は約4兆円を誇るが、地域の産業の今後のあり方を巡って、今後どのような産業戦略で望むのか、各企業の指針となるような具体的な提言が必要不可欠となっている。本会議(シンポジウム)では企業トップや大学教員等で議論を深め、地域産業の方向性を共有する。

2. 開催日時及び場所

(1)日時 : 2011年9月22日

(2)場所 : 名鉄トヤマホテル

3. 講演並びに各パネラーからの説明の概要

(1) 基調講演

「産業構造の変革とこれからの産業戦略について」

東京大学公共政策大学院 教授 林 良造

(2) パネラーによる説明の概要

(ナビゲーター：北陸経済研究所 専務理事 川田 文人；富山大学経済学部 教授 清家 彰敏)

- 1) ライフスタイルの変化で民生用、運輸部門のエネルギー消費が増加しており、今後省エネルギーへの取り組みを支援する。また原子力の安全・安定運転と再生可能エネルギー導入拡大には積極的に取り組み、低廉・良質な電気を供給する社会的使命を全うしたい。(北陸電力㈱ 社長 久和 進)
- 2) 「産業の潮流」「科学技術の潮流」「応用技術の潮流」について述べられ、流れを読み、流れに乗ることが一番重要であると力説した。(㈱日本抵抗器製作所 社長 木村 準)
- 3) 今までの量からコンパクト・高速などの質への転換をはかって中国に勝つしかなく、更なる開発技術力のアップが必要である。(コマツNTC㈱ 常務執行役員 杉野 高広)
- 4) 金融機関の役割には、縦社会に横串を入れるコーディネーター、目利き力による産学の仲介、資金調達の支援、人材育成支援の4つがある。北陸銀行では産学官の橋渡し役と北銀のネットワークをフルに活用した有効なマッチングを実現し、地域社会に貢献していきたい。(北陸銀行 産業調査部長 藤田 寛)
- 5) 海外企業と開発提携やM&Aでバイオ後発品への参入、アジア市場への進出、社内体制の強化をはかる必要がある。(日医工㈱ 取締役常務執行役員 赤根 賢治)
- 6) 長期的には脱サッシ(リチウム電池・LED反射板・メガソーラ架台などの成長産業分野進出)、アルミサッシから樹脂サッシ、グローバル展開へとビジネスモデルの転換が必要で、産学連携が今以上に重要になっている。(YKK AP㈱ 開発本部 室長 森本 重久)
- 7) 富山大学地域連携推進機構が中心になって大学の教育や研究資源の情報を集めて共有化し、大学がハブ機能となって産学官金連携を推し進めていきたい。(富山大学 学長 遠藤 俊郎)